

2024年12月期第2四半期 決算説明会

小林製薬株式会社

代表取締役社長

山根 聡

2024.8.8

(山根)

山根でございます。こういう形で皆さんの前に出るのは1年半ぶりかと思いますが、よろしくお願い申し上げます。

本日は皆様、ご多忙にも関わらずご参加いただきまして、誠に恐れ入ります。本日、8月8日付をもちまして、小林製薬株式会社の代表取締役社長に就任いたしました、山根でございます。よろしくお願い申し上げます。

紅麴関連製品に関して

この度は、当社紅麴関連製品に関してお客様やお取引先様をはじめ、当社に関係する様々な皆様に多大なるご迷惑、ご心配をお掛けしており、改めて深くお詫び申し上げます。

お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆様にご心からお悔やみ申し上げます。また、現在も入院中、治療中の方の一刻も早いご回復をお祈り申し上げます。

まずは改めまして、お亡くなりになった方のご冥福をお祈り申し上げ、それとご遺族の皆様にご心からのお悔やみを申し上げます。また、入院をされてる方、通院にて治療されてる方の一刻も早い回復を、心よりお祈り申し上げます。

今回の紅麴サプリの問題、これはお客様の健康のために、医薬品や食品を販売している当社にとっては本当にあってはならない事でありまして、本当に私としても痛恨の極み、責任を強く感じるところであります。

今年の1月に症例を確認してから2カ月間、なぜ公表することができなかったのか、本当に悩み続けてまいりました。我々は決して隠蔽するとかそういうことではなく、放置しているというわけでもなく、一生懸命やってきたつもりでしたが、なぜそれができなかったのか。今から思えば、原因究明に傾注してしまい、本当にこの今の状況では「誰に今後どういう結果をもたらすのか」という想像力をしっかり働かせられなかった。これが最大の反省であります。

健康に貢献する産業、会社ですから、それを存在意義としている我々ですから、他者を慮る想像力がしっかり働かせられなかった。本当に我々にとっていま最大の難局にあると考えております。

これから当社は、事業を行っていく上での考え方、これを一から入れ替えなければならないと思っております。それは、私達1人1人が、一つ一つの仕事を我がこととして、他者を慮る、周りの方を慮る、その想像力をいかに働かせるかという、その当たり前を一人一人に根づかせることになるかと思っております。

そして、それはもう誰よりも我々経営陣がそれを率先してやる、先頭に立ってやりきる、そういうことだと思っております。結果、本当にもう一度再び我々が、あったらいいなをカタチにすることができ

る、してよろしいと、そう言っていただける会社になるように努力していかなければならないと思っております。

本日は、その第一歩となるために、原因究明はまだまだ続いていて、確定的なことは申し上げられないですが、想定する原因や補償の方針、足元の安全確認の状況、これらについてご説明したいと思います。

2024年8月4日時点

死亡に関連する お問い合わせ数 ※1	摂取の実態なし ※2	207	
	摂取実態確認中	5	
	詳細調査対象 ※3	107	
	(内訳)	調査継続 ※4	32
		調査完了	21
(合計)	54		
入院 ※6		467 (301)	
通院 検査入院を含む ※6		1,819 (1,394)	
受診者計 入院+通院 ※6		2,286 (1,695)	
健康相談の件数		約10,300件	
全ての受付数 健康相談以外のお問い合わせを含む		約147,000件	

- ※1 件数の表示方法の変更前に公表していた5事例を含む
- ※2 紅麹コレステヘルプ等を摂取していなかったことが確認された件数
- ※3 確認の手続きの対象となる件数
- ※4 現在詳細調査中の件数
- ※5 詳細調査の同意が取得できない等のため調査が困難な件数
- ※6 カッコ内は腎関連疾患のみの件数

(「入院」「通院」「受診者計」「健康相談の件数」「全ての受付数」は、のべ数)

まず、健康被害の状況についてご説明いたします。

これは8月4日時点の状況でありまして、ホームページにも掲載しております。今後も正確な被害の状況の把握に努めて、一刻も早く調査完了できるよう、厚生労働省、大阪市の方々のご指導をいただきながら取り組んでまいります。

数字について下から見ていただきますと、全ての受付数、これは健康被害だけではなくて、商品の返金とか返品の方法など、その他のお問い合わせも含めての件数であります。14万7,000件あります。そのうち健康被害についてのものが1万300件です。

そして、これまで入院された方の延べ件数が467件、これまでに通院された方の延べ件数が1,819件という状況です。

死亡に関連するお問い合わせ、これは全て我々の製品を摂取しておられるかどうかに関わらず、お問い合わせがあった件数がトータルで319件。そのうち、摂取の実態が無かった方が207件、現在実態確認中のものが5件あります。その結果、詳細調査対象が107名おられるわけですが、そのうち32件の方がいまだ継続調査中、21名の方は調査が完了し、医学的な因果関係については、ある程度整理ができたということになります。残り54件の方は、同意書の取得ができない等の理由で、ここで調査終了せざるを得ない方となります。

代表取締役の異動（2024年7月23日発表）**■小林 一雅（前代表取締役会長）**

7月23日付で代表取締役会長及び取締役を辞任し、特別顧問に就任

■小林 章浩（前代表取締役社長）

8月8日付で代表取締役社長を辞任し、取締役 補償担当に就任

■山根 聡（前専務取締役）

8月8日付で代表取締役社長に就任

続きまして、7月23日付で、経営体制の異動・変更をいたしましたので、改めてご案内いたします。

7月23日付で、当社代表取締役会長であった小林一雅は辞任いたしました。今は特別顧問に就任しております。前代表取締役社長、小林章浩、これは本日付で代表取締役を辞任しまして、補償担当の取締役になっております。そして後任の社長には、本日付で私が就任いたしました。

私に課せられた使命・課題は、全社を挙げてやるべきことをしっかりやる。その先頭に立って、間違いなくきっちりやるんだということだと理解をしております。失った信頼はすぐに戻すことは残念ながらできないと思います。故に、一つ一つ小さな信頼を積み重ねてまいります。

2024年7月23日付リリース「事実検証委員会の調査報告を踏まえた取締役会の総括について」での指摘事項も踏まえ、下記5つの課題に全社を挙げて取り組んでまいります。

- ① **被害者の方々への謝罪と補償**
- ② **品質安全確認と再発防止**
- ③ **企業理念、企業風土の見直し**
- ④ **経営体制の抜本的改革**
- ⑤ **従業員との対話**

私がこれから陣頭指揮をとりながら、全社を挙げて取り組むものを五つご説明いたします。これは、7月23日付の取締役会の総括にも書いてあるところでもあります。

一つは謝罪と補償。これは何よりも大事なことから、力強くやることにしてまいります。後ほどご説明いたします。

品質安全確認と再発防止。これも補償に対する向き合いと同じ、重要なものがございますから、後ほどご説明を申し上げます。

3点目が、企業理念、企業風土の見直しであります。お客様の健康、品質安全を第一に考える、その意識の徹底、これから果たさなければならないと思っております。

4番目、経営体制の抜本的改革であります。当社の信頼回復と事業再建のため、今回の危機管理対応における反省、これを教訓にして、今後の体制、抜本的改革の検討を進めてまいります。

5番目は従業員との対話であります。今回の問題は危機管理におけるリーダーシップの失敗でありました。これによりまして、従業員の経営に対する信頼も損なってしまいました。故に、従業員が経営に対する信頼、安心感、モチベーションをさらに持てるように対話に努めてまいります。既にこれはもう開始しております。

「品質と安全を第一に考える」という意識と感度を更に高めるため、以下の施策を実施してまいります。

- ・意思決定における多様な視点の確保
- ・同質性の排除
- ・リスクマネジメント体制の再整備
- 執行役員会と取締役会との連携強化
- 品質と安全を第一に考えるための組織の見直しと再編
- 執行役員会のあり方の見直し
- 取締役会議長を社外取締役の中から選定

なお、コーポレートガバナンスということが今回のテーマになりますが、この強化につきましては、意思決定における多様な視点の確保、同質性の排除、リスクマネジメント体制の再整備などの施策を実施してまいりたいと思います。

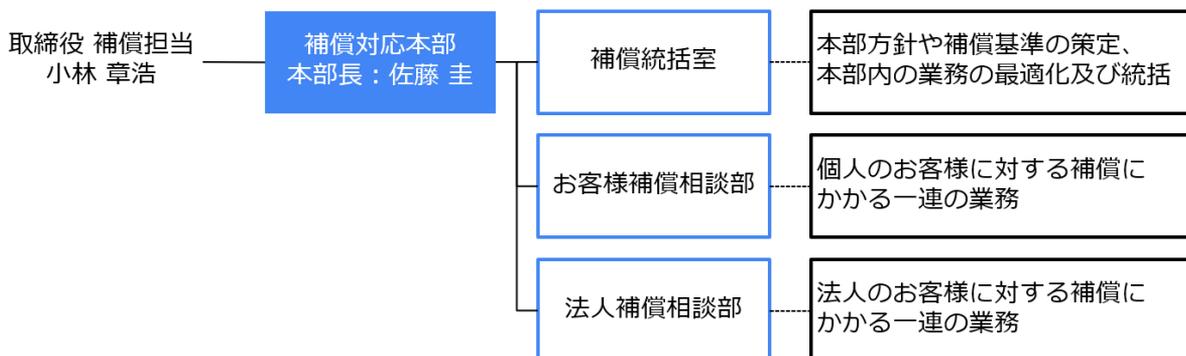
今回の反省の上に、何よりも大事なのはやはり、品質と安全を第一に考えるという意識の感度、これをさらに高めることではないかと思っています。そして、その決断はリーダーが下すのだという強い決意と意識を持っておきたいと思っています。

具体的に何をするかであります。例えば一例であります。多様な視点等々を含めて、執行役員会と取締役会、この連携をさらに密にしたいと思っています。品質と安全、これを第一に考えるための組織、今で言うと信頼性保証本部ですけれども、それを中心に組織の機能強化と充実を図り、さらにそれに対して横串をさせるような新しい組織の設置も考えたいと思っています。

また、執行役員会については、これも多様な視点、同質性の排除をして、多様な視点でやるとか、もっと決断ができる会にしていきたいと考えています。この他にも、各所から様々なご助言をいただくこともあろうかと思っています。特に投資家からのご意見には耳を傾けて、必要なものはぜひ取り入れさせていただきたいと思っています。

ちなみに、7月26日のコーポレートガバナンス報告書でも開示しておりますが、取締役会の議長につきましても、ガバナンス強化ということで、社外取締役の方から、毎回どなたかを選任するという形の運営に変えております。

補償専任組織として7月1日付で補償対応本部を立ち上げており、誠心誠意、補償の対応を行ってまいります。



補償関連の業務を補償対応本部に集約・一元化してお客様への対応を迅速かつ適切に進められる体制といたしました

(小林)

この度、当社の代表取締役社長を辞任しまして、補償本部の管掌の取締役となりました、小林です。今回の件では、健康被害に遭われた方をはじめ、今もなお多くの皆様に多大なるご心配、またご迷惑をおかけしておりますこと心よりお詫びを申し上げます。

山根からもございました通り、今後、補償の役割を最後までやり切ることが、当社のこれからの歩みの大前提となると考えております。創業家の者で、やはり前社長でありました私が責任を持って、最後まで補償をやり切ることが、私に課せられた使命であると考えております。

それでは、スライドで少し概要を説明いたします。

7月1日付で、補償の専任部門を作りました。補償対応本部でございます。

各本部に散らばっていた補償関連の業務を集約・一元化いたしまして、お客様への対応を迅速かつ適切に進められる体制としております。この体制のもと、誠心誠意、補償の対応を進めていきたいと考えております。

当社製品の摂取によって健康被害にあわれたお客様に対する補償を開始いたします。

■対象製品

2024年3月27日付で大阪市保健所より回収命令を受けた当社製品（当社の紅麹コレステヘルプ等）のうち、プベルル酸を含有することが確認された、または可能性のある各製品

■対象となるお客様

ご提出いただく医師の診断書の内容等を総合的に勘案して、対象製品の摂取と腎関連疾患およびその他の症状の間に因果関係が認められるお客様

■補償開始予定日/ご連絡先

2024年8月19日からの受付開始を予定

紅麹関連製品お客様対応センター 0120-663-272

※受付時間：土日祝を含む9-21時

続きまして、補償の方針です。

対象製品は3月27日付で大阪市保健所より回収命令を受けた当社製品のうち、プベルル酸を含有することが確認された、または可能性のある製造番号のものとなります。詳細は、リリース内容をご確認をいただく所存です。

対象となるお客様は、対象製品の摂取と症状の間に因果関係が認められるお客様としております。ご提出いただいた医師の診断書の内容などを総合的に勘案して判断を進めさせていただく考えでございます。

また、補償の受付につきましては、8月19日からを考えております。

**当社製品の摂取によって健康被害にあわれたお客様に対し、
誠実かつ適切な内容の補償を行ってまいります。**

①	医療費・交通費	お客様の症状(※)の治療に要した医療費(初診料・検査費用・診断書作成費用を含む)および交通費の実費をお支払いいたします ※対象製品の摂取との間に因果関係がある症状。以下同じ。	随時お支払い
②	慰謝料	お客様の症状によって受けられた精神的苦痛に対する補償として、過去の裁判例等を参考に法律専門家の意見も踏まえて設定した基準をもとに、お客様の症状等を総合的に考慮の上、個別に金額を算定しお支払いいたします。	補償内容にご同意いただき 次第、速やかにお支払い
③	休業補償	お客様の症状によって休業しなければならなかったことにより生じた収入の減少に対する補償として、当社所定の手続に従って個別に金額を算定しお支払いいたします。	
④	後遺障害による逸失利益	お客様の後遺障害によって将来得られたはずの収入が減少した場合、後遺障害による逸失利益の補償として、過去の裁判例等を参考に法律専門家の意見も踏まえて設定した基準をもとに、お客様の症状等を総合的に考慮の上、当社所定の手続に従って個別に金額を算定しお支払いいたします。	

続きまして、補償の内容です。四つの項目となっております、医療費・交通費、そして慰謝料、休業補償、そして後遺障害による逸失利益となります。

最初の医療費・交通費につきましては、随時お支払を既に行っているものもございます。慰謝料以下につきましては、ご承認いただきましたものから、いただき次第、速やかにお支払をしていく所存でございます。その他詳細につきましては、ご確認いただく場合は、資料をご確認いただければと思います。

この方針に基づきまして、誠心誠意、健康被害に遭われた方々への補償を進めていきたいと考えております。以上でございます。

(山根)

現時点での補償の方針は以上でございますが、いずれにしましても補償、これはとても重要なこと
でございますから、最重要テーマとして取り組んでまいります。

本日リリースのとおり、当社は紅麹事業から撤退することを決定いたしました。

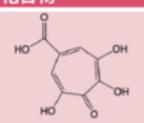
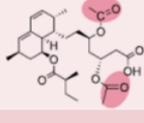
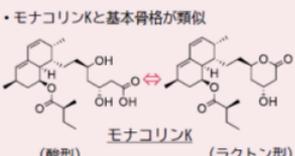
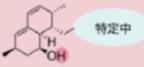
(撤退の理由)

- ・ 重大な健康被害を引き起こし、社会にご迷惑をお掛けしていること等を踏まえ、2024年8月8日開催の取締役会において、本事業撤退を決議いたしました。
- ・ なお、本事業撤退後におきましても、引き続き、被害に遭われたお客様及び取引先様への補償、原因究明等の対応は進めてまいります。また、紅麹関連製品に係る製造ラインの問題点を全て洗い出し、再発防止策を講じることが企業としての使命であると判断し、これらについても継続して実施してまいります。

それでは、これは本日 15 時にリリースした件でございますけれども、今回の事案に関係しました紅麹事業については、本日の取締役会で撤退を決定しております。

当社は引き続き、厚生労働省及び国立医薬品食品衛生研究所が主導する原因究明に協力しておりますが、現時点では**原因の特定に至っておりません。**

なお、原因究明の途中経過が5月28日に公表され、**紅麹の培養中に青カビが混入・増殖することで、プベルル酸などの化合物を産生し、健康被害が生じた可能性が指摘されています。**

化合物	特性	発生機構	腎毒性
①プベルル酸 		和歌山・大阪双方の工場から採取された青カビ(<i>Penicillium adametzioides</i>)が、コメ培地を栄養源として産生	①が腎障害を引き起こすことを動物実験(ラット)で確認済
②化合物Y (C ₂₈ H ₄₂ O ₆) 	・モノコリンKと基本骨格が類似  モノコリンK (酸型) (ラクトン型)	和歌山・大阪双方の工場から採取された青カビ(<i>Penicillium adametzioides</i>)が、単独では産生しないが、紅麹菌との共培養によりモノコリンKを修飾して生成	①～③を含む製品が腎障害を引き起こすことを動物実験(ラット)で確認済
③化合物Z (C ₂₃ H ₃₄ O ₇)  特定中	・既知の天然化合物ではないと推定される。	化合物Yと同様の機序について確認中	

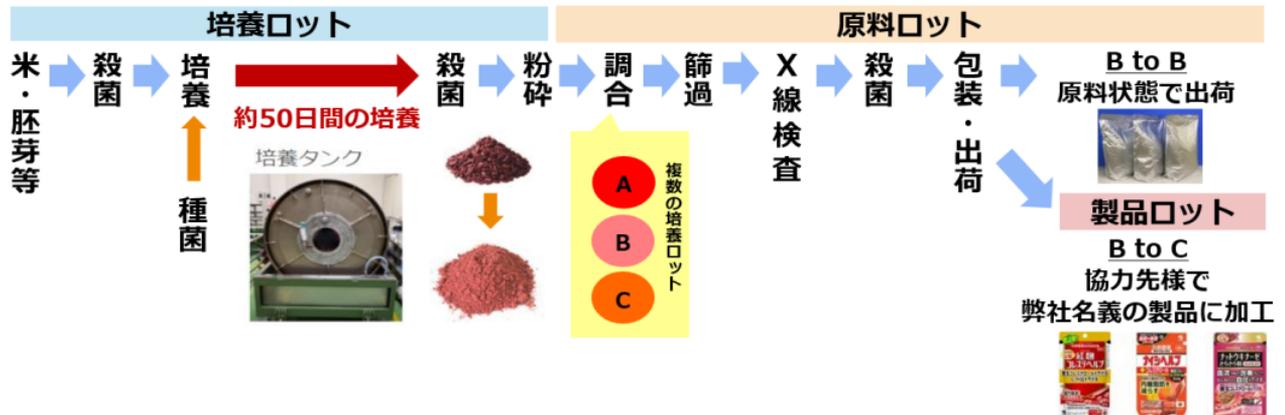
小林製薬社製の紅麹を含む食品の事案に係る取組について(国立医薬品食品衛生研究所)(5月28日公表)より一部転写

続きまして、補償に並んで、もう一つ重要な品質安全確認と再発防止の方向性につきまして、ご説明をいたします。

当社では引き続き、厚生労働省や国立医薬品食品衛生研究所が主導する原因究明に協力してまいりますが、現時点でまだ残念ながら原因の特定には至っておりません。

なお、原因究明の途中経過が5月28日に公表され、紅麹の培養中に青カビが混入して増殖することで、プベルル酸などの化合物が生まれて健康被害を生じた可能性が高いと示唆されております。

紅麴製造ラインは約50日間の培養期間が特徴的で、その長い培養工程で青カビが混入・増殖した結果、プベルル酸等が産生したと推定しています。加えて衛生管理や手順書の不備、品質管理上のリソース不足等も原因の1つと考えています。



紅麴製造ライン、これは当社で約 50 日間の培養期間が特徴でありまして、その長い培養期間が故に青カビが混入・増殖した結果、プベルル酸などが産生したと推定しております。加えて、衛生管理、手順書の不備、品質管理上のリソースの不足等々もあったかもしれないということで、原因の一つと考えております。

本日お伝えしたい内容

本来であれば、今回の紅麴の問題の直接的な原因を確定させて、それに対する再発防止策をご説明するべきですが、原因の特定に至っていないので、再発防止策は改めて説明させていただきます。

一方で、紅麴以外の製品で、同様の健康被害を発生させるようなリスクが無いかの確認を進めておりますので、現時点の進捗をご報告いたします。

さて、本日お伝えしたい内容を申し上げます。

本来であれば、今回の紅麴の問題の直接的な原因を確定的なものとしてご案内し、それに対する再発防止策、これをご説明したかったところでございますが、残念ながら未だに原因の特定・確定的にお話しできるものには至っておりません。

故に、再発防止策はまた改めてご説明させていただくこととして、一方で、紅麴以外の製品で同様の健康被害を発生させるようなリスクがないかの確認は当然進めておりますので、今日は、その現時点の進捗をご説明したいと思います。

当社工場で製造している他製品の品質確認（中間報告）

当社工場は、一定の公的基準（GMP、ISO等）を遵守して製造しておりましたが、改めて、安全性を確認する為、まずは口から摂取する製品の製造ラインについて自主点検を行いました。

今後は**第三者機関の監査を年内までに実施予定**です。



当社工場で製造している他の製品の品質確認、この中間報告を今から簡単にいたします。

当社の工場では、一定の公的基準、これを遵守して当然製造しておりますが、改めて安全性を確認するため、まずは重点的に口から摂取する製品の製造ラインについて、自主点検を行っております。今後は、第三者機関の監査、これを年内までに実施する予定にしております。

自主点検目的：紅麹問題と同様の健康被害リスクがあるか、の確認

まず、当社その他製品の製造ラインには、**紅麹同様の培養工程（カビが増殖しやすい工程）が無いことを再確認しました。**

その上で、自主点検を以下3つの内容で実施いたしました。

- 1. 当社工場の衛生管理、手順書等の管理・運用における点検（口から摂取する全製品：サプリメント、医薬品、等）**
→重篤な健康被害発生に繋がる、製造上の運用リスクは無いかな？
- 2. 当社工場に勤務する全従業員への実態調査の実施**
→重篤な健康被害発生に繋がる、潜在的な品質管理リスクは無いかな？
- 3. 化学的試験（青カビ増殖試験、プベルル酸分析試験）**
→当社工場製造の“口から摂取する製品”に、青カビが増えない事、市場流通している製品にプベルル酸が入っていない事の確認

その上で、自主点検について、ご覧の三つを実施しております。

1. 当社工場の衛生管理、手順書等の管理・運用における点検

＜自主点検品目＞

口から摂取する全製品（サプリメント、医薬品、等）

＜自主点検内容＞

- ・異物、菌などの混入、カビ毒など未知成分の産生リスクが無いか
- ・工場の衛生基準は適切に設定され、運用ができていないか（GMP基準、及び準ずる運用、衛生管理教育、等）
- ・手順が定められ、製造記録を残せる運用ができていないか（手順書、記録書等の整備状況）
- ・手順書の内容通り製造ができていないか

＜結果＞

ただちに重篤な健康被害を発生させるリスクは認められませんでした。
しかし、一部の製造工程や管理基準において、運用を見直すべき箇所がいくつか発見されており、現在改善を進めております。

2. 当社工場に勤務する全従業員への実態調査の実施

事実検証委員会の調査報告書から、**紅麴製造ラインでは一部現場任せの品質管理があったり、常態的な人手不足が指摘**されました。

そこで、同様のリスクが無いが、全工場従業員を対象に調査を実施しました。

<調査項目>

- ・ **曖昧な基準**で品質に関する判断がなされることがあるか。
- ・ 品質に関する判断において、**ダブルチェック**などのルールが存在していない、等**単独で判断**がなされることがあるか。
- ・ 製造現場で、品質管理に問題が発生するような**人員不足**が発生しているか。
- ・ その他、ご自身が実際に経験した品質管理上の問題はありますか。

<結果>

現時点では**重篤な品質不具合や健康被害に繋がる事象は認められませんでした。**
しかし一部製造ラインに関しては**人手不足や試験項目の曖昧さ等の指摘が寄せられておりますので、会社としてしっかり受け止め一つ一つ丁寧に改善してまいります。**

例：省人化、生産効率の追求で作業員負担増 → 対策案：生産スピードを落とす、等

3. 化学的試験（青カビ増殖試験、フペルル酸分析試験）

当社工場製造の“口から摂取する製品”に関して、以下の試験を実施しています。

1. 実験的に青カビを製品に植え付けても、増殖しない事の確認（以下A～E）
2. 市場に流通している製品で、“フペルル酸”が含まれていない事の確認（以下A～D）

<試験品目>

- A：大阪工場製造品目（閉鎖前）
- B：梅丹本舗製造品目
- C：他の当社工場製造の、サプリメント、等
- D：他の当社工場製造の、漢方薬
- E：他の当社工場製造の、上記以外の口から摂取する製品

<結果>

“口から摂取する製品”で、1. 青カビは増殖せず、2. 市場に流通している製品からもフペルル酸は検出されませんでした。

本日までの当社工場の自主点検結果から、紅麴以外の製品において、重篤な健康被害発生リスクは、現時点認められませんでした。

しかし全ての問題を抽出できているとは思っておりませんので、さらに全社一丸となって製造現場に向き合える体制を構築し、改善を進めてまいります。

(具体例)

- ・生産の効率化やコスト削減の活動を一旦凍結させ、安心・安全を第一とした品質強化活動にリソースを配分していきます。
- ・部門横断（本社・工場・研究等）の品質強化チームを発足し、工場でのモノづくり課題抽出と改善活動を、8月下旬から取り組んでまいります。
- ・第3者機関の監査視点を強化、更なる安全確認・改善を進めてまいります。

今後については、**現在検討中の再発防止策に、今回の自主点検結果の内容も踏まえて、網羅的に策定し、内容がまとまり次第公表していく予定です。**

本日までの当社工場での自主点検の結果からは、紅麴以外の製品について、重篤な健康被害発生リスクは現時点認められませんでした。しかし、全ての問題を完全に抽出できているとは思いませんので、さらに全社一丸となって、製造現場に向き合える体制をこれからも構築し、都度改善を進めていく考えであります。

今後につきましては、現在検討中の再発防止策に今回の自主点検結果の内容も踏まえて、網羅的に策定し、内容がまとまり次第、公表する考えであります。再発防止策の検討におきましては、ガバナンス視点からの強化策も実行してまいります。これにつきましても、今内容を詰めておりますので、あわせてそのときにご説明をする考えであります。

再発防止策は今、鋭意検討中ではありますが、全社一丸となって、これを必ず実現し、信頼の回復に努めてまいりたいと思います。

2024年12月期第2四半期 決算業績報告

小林製薬株式会社

執行役員 CFOユニット ユニット長
中川 由美

2024.8.8

(中川)

私、中川からは、2024年12月期第2四半期の決算業績につきまして、ご報告をさせていただきます。

国内事業

(カッコ内の数字は対前期)

トータルでは▲30億 (▲5.2%) の減収。

- ・ 訪日客の増加に伴ってインバウンド需要の増加 (+21億)
- ・ 「Sawaday+ & Emotion」や「ヒプキュア」などの新製品が貢献 (+19億)
- ・ 紅麴関連製品の回収や広告中止の影響で、既存品が減収 (▲48億)
- ・ 暖冬によるカイロ返品増 (▲10億)
- ・ 通販の定期購入解約による減収 (▲11億)



国際事業

(カッコ内の数字は対前期 ※為替影響含む)

トータルでは円安による為替換算影響もあり+26億 (+16.7%) の増収。

- ・ 米国 : 昨年M&AしたFocus社が貢献し増収 (+22億)
- ・ 中国大陸 : 広告停止の影響により減収 (▲6億)
- ・ 香港地域 : 中国大陸からのインバウンド需要の反動で微減収 (▲0.2億)
- ・ 東南アジア : 各国で熱さまシートが好調で増収 (+6億)

まずは、第2四半期累計の業績サマリーとなります。

国内事業は、トータルで対前年に比べまして、マイナス30億円、マイナス5.2%の減収となりました。国際事業に関しましては、対前年プラス26億円、プラス16.7%の増収となりました。

国内事業のこのマイナス30億円の中には、インバウンド需要の増加21億円を含んでおります。また、Sawadayの新製品、ヒプキュア、そういった新製品の影響はプラス19億円でした。

反面、紅麴関連製品の自主回収等の影響で、既存品が減収しておりまして、マイナス48億円の結果となっております。また、カイロの暖冬の影響による減収や、通販の減収もございまして、トータルでの減収という結果となっております。

国際事業に関しましては、為替の影響もございしますが、中国大陸や香港地域の減収を他の国・地域でカバーした形となり、トータルでは増収となりました。なお、国際事業につきましては各国のページでご説明をさせていただければと思います。

紅麴関連製品回収等に伴う特別損失40億円(上期計79億円)を計上。

(単位：億円)	2023年		2024年					
	4-6月	1-6月	4-6月			1-6月		
	金額	金額	金額	対前期	利益率	金額	対前期	利益率
売上高	401	736	366	▲8.7%	-	731	▲0.7%	-
売上総利益	231	424	198	▲14.5%	54.0%	407	▲4.1%	55.7%
営業利益	53	104	44	▲16.9%	12.1%	94	▲9.0%	13.0%
経常利益	60	111	49	▲17.2%	13.6%	104	▲6.6%	14.3%
当期純利益	42	78	4	▲89.2%	1.3%	14	▲81.7%	2.0%
EBITDA※	67	131	64	▲3.7%	17.7%	133	+1.0%	18.2%

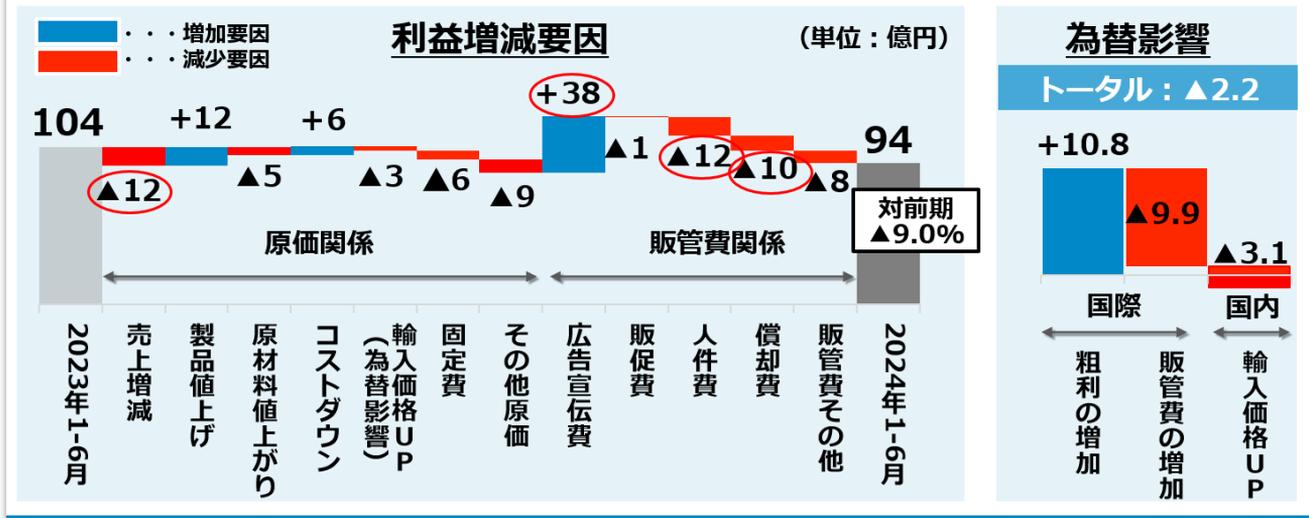
※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

続きまして、連結業績となります。

第2四半期累計の売上高は731億円で、前年度の比較ではマイナス0.7%でした。営業利益は94億円で、マイナス9.0%。当期純利益におきましては14億円で、マイナス81.7%の減益の結果となりました。

第2四半期におきましても、第1四半期に追加いたしまして、紅麴関連製品回収等に伴う特別損失を計上しておりまして、上期では合計79億円を計上しております。この金額は、6月までの発生分と、7月以降に発生を見込むものにつきましても、合理的に見積もれるものにつきましては計上しているものとなります。

広告中止で利益を押し上げた一方、売上減や人件費増の影響に加え、23年10月にM&AしたFocus社の償却費増も影響し、減益で着地。



続きまして、連結営業利益の増減要因となります。

第2四半期累計の営業利益は94億円となりましたけれども、こちらは前年104億円から比べますと約10億円の減益となっております。増加要因を青のブロック、減少要因を赤のブロックで示しておりますけれども、まず大きな要因としましては、青のブロックであります広告を抑えてる影響というものが大きく出ておりまして、こちらはプラス38億円となっております。

しかしながら、減収の影響がマイナス12億円、人件費増がマイナス12億円、償却費増マイナス10億円などもございまして、結果減益となっております。

為替の影響を右の方に示しておりますけれども、プラスとマイナスの要素がございました。今期は仕入価格の影響の方が大きく出ておりまして、ネットではマイナス2.2億円の結果となっております。

ヘルスケアは苦戦するも、日用品は伸長。カイロ・通販は減収

(単位：億円)		2023年		2024年			
		4-6月	1-6月	4-6月		1-6月	
		金額	金額	金額	対前期	金額	対前期
売上高	ヘルスケア	168	309	143	▲15.3%	298	▲3.5%
	日用品	130	212	128	▲1.6%	214	+1.1%
	カイロ	9	17	2	▲69.2%	7	▲60.1%
	通販	19	38	11	▲41.4%	27	▲28.7%
	合計	328	577	286	▲12.9%	547	▲5.2%
営業利益計		57	93	59	+4.0%	97	+5.1%
(率)		17.4%	16.1%	20.8%	-	17.9%	-

続きまして、国内事業を見ていきたいと思えます。

第2四半期累計の売上は、トータルで547億円の5.2%減収の結果となっております。日用品につきましては、第2四半期に少し落込みはありましたが、半期ではプラスの1.1%となっております。日用品以外につきましては、全体的に前期と比べましてマイナスの結果となっております。ヘルスケアにつきましては、食品カテゴリーが影響を受けて、マイナス3.5%の結果となっております。

カイロにつきましては、暖冬の影響がございまして、前期から10億円のマイナスとなり、通販事業におきましては、4月以降解約のお申し出の影響もございまして、27億円でマイナス28.7%となりました。

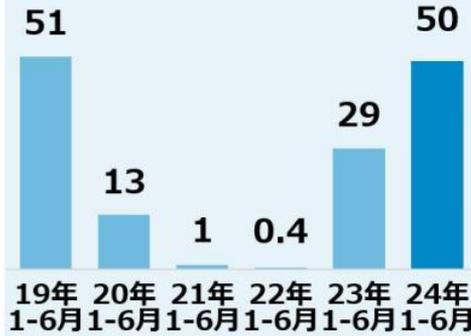
営業利益につきましては、国内では広告を抑えている影響もございまして、97億円でプラス5.1%の結果となっております。

紅麴の影響を一部受けつつも、訪日客の増加に伴い、コロナ前並みで推移。

コロナ禍で発売した新製品でインバウンドの兆候が見られるものも。

インバウンド売上の推移

(単位：億円)



新たな兆候のある新製品



外国語POP展開



インバウンド売上ランキング

順位	2019年 1-6月	2024年 1-6月
1	命の母	ナイシトール
2	サカムケア	命の母
3	ブレスケア	栄養補助食品
4	アンメルツ	のどぬ〜る
5	のどぬ〜る	メガネクリーナ

続きまして、国内事業のインバウンドの影響についてご説明をいたします。

第2四半期までの累計では、50億円の売上の結果となっております。これは、コロナ前ピーク時の2019年と比較しまして、ほぼ同水準の金額となっております。海外からのお客様の構成比に関しましては、台湾地域、韓国、中国大陸、これらが約30%ずつ占めているというような状況でございます。

また、第2四半期までの売れ筋商品につきましては、コロナ前とは大きくは変わっていないという状況でございました。

中国大陸・香港地域の減収、Focus社の償却費等が影響し、
トータルは増収減益（為替影響：売上高+17億円、営業利益+0.8億円）

(単位：億円)		2023年		2024年					
		4-6月	1-6月	4-6月			1-6月		
		金額	金額	金額	対前期	対前期 (為替除く)	金額	対前期	対前期 (為替除く)
売上高	米 国	19	46	30	+53.5%	+35.0%	69	+48.4%	+31.4%
	中国大陸	19	40	13	▲31.1%	▲36.9%	34	▲15.5%	▲21.2%
	香港地域	8	14	7	▲10.7%	▲21.4%	14	▲1.3%	▲12.8%
	東南アジア	15	38	17	+10.8%	+2.8%	44	+16.6%	+8.4%
	その他	8	15	11	+31.2%	+16.6%	19	+23.2%	+8.7%
	国際計	71	155	79	+11.3%	▲0.2%	181	+16.7%	+5.6%
営業利益計		▲4	8	▲15	-	-	▲4	-	-
(率)		-	5.6%	-	-	-	-	-	-

続きまして、国際事業を見ていきたいと思います。

第2四半期累計の売上では181億円で、対前期でプラス16.7%の増収となりました。為替影響を除きますと、国別ではプラスマイナスはございますが、トータルでは5.6%の増収となりました。

営業利益につきましては、トータルマイナス4億円となりまして、昨年秋に買収しましたFocus社の販管費の増分でありますとか、のれんの償却費、こういったものが影響しておりまして、赤字の結果となっております。

それでは、国別に簡単にご紹介をしていきたいと思います。

カイロが暖冬で苦戦するも、医薬品・その他は23年10月にM&AしたFocus社の連結影響や為替の影響もあり増収。

(単位：億円)

売上高 ※括弧内の%は為替除き



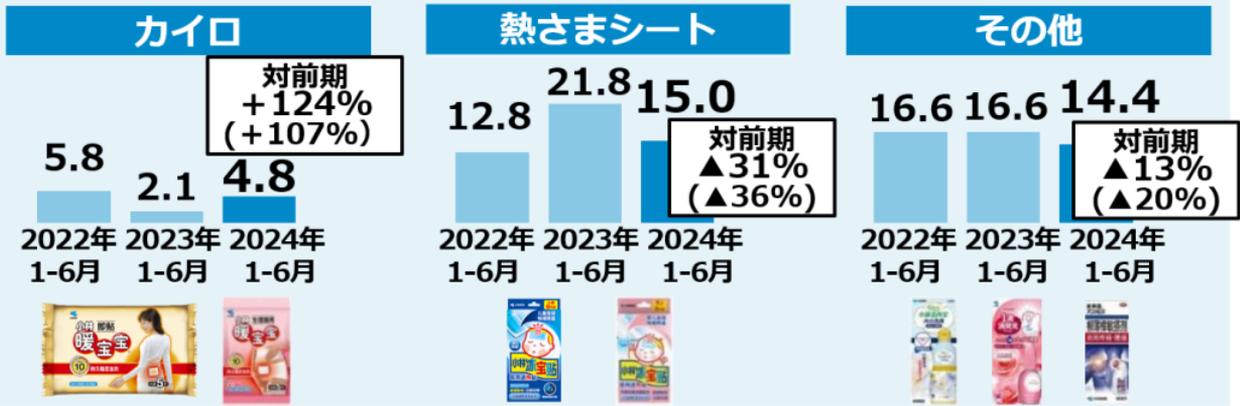
まず、アメリカでございます。

カイロは暖冬がございまして、苦戦をしておりますけれども、それ以外の医薬品・その他、そういった分類におきましては、Focus社が連結に加わったこともございまして、大きく増収の結果となっております。

中国大陸は広告を中止している影響で、全体的に苦戦。カイロは昨年、無返品契約への切替に伴う出荷抑制があり、その反動で増収。

(単位：億円)

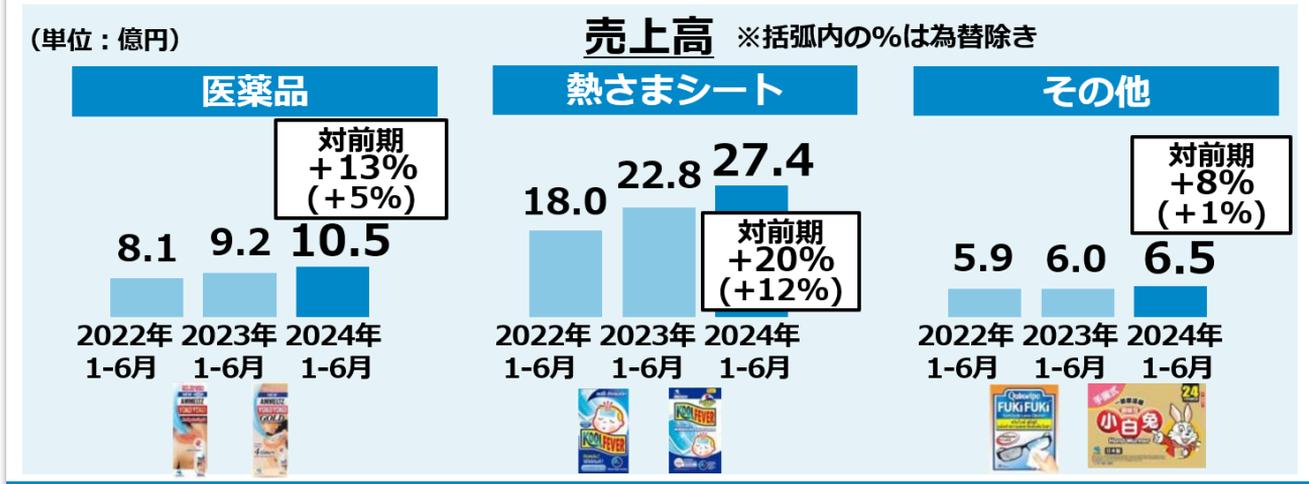
売上高 ※括弧内の%は為替除き



続きまして、中国大陸です。

広告を停止している影響もございまして、前年と比較してマイナス傾向となっております。カイロにつきましては、昨年同期に無返品契約への切替を伴う出荷抑制がございまして、その比較ではプラスとなっておりますけれども、2022年の金額と比べますと、その水準にはいたっていないというような結果になっております。熱さまシートにおきましても、昨年のコロナ特需の反動もあり、比較をしますとマイナスの結果となっております。

医薬品はアンメルツが好調。
熱さまシートは各種感染症拡大により需要が伸び増収。



続きまして、東南アジアについてご紹介いたします。

医薬品につきましては、アンメルツが好調に推移をしております、増収の結果となっております。熱さまシートに関しましても、コロナ、インフルエンザなど、各種感染症にも使用される生活習慣が根づいております、増収の結果となっております。

2023年の製品値上げによる店頭売価・販売数量への影響は想定通り。
2024年も208SKUの製品値上げを実施予定。



続きまして、製品値上げの状況についてご紹介をさせていただきます。

製品値上げにつきましては、先日8月2日にもリリースをさせていただいておりますけれども、予定通り、今後も行っていく予定でございます。現時点の予定としましては、昨年よりも少し微増してる程度の値上げの品目を今予定をしております。

大型設備投資、新製品開発も計画通り進捗



次のページは設備投資についてでございます。

既に発表しております、海外の成長を支える大型設備投資につきましては、計画通り進捗をしております。また、順次稼働を予定しております。

また、新製品開発におきまして、KPIとして30品目というような目標を定めておりますけれども、こちらは変えることはなく、秋も新製品の発売を予定しております。

前提

- ・中止している国内の広告は、年内再開しない想定
- ・インバウンドは期初想定通り（年間95億円）
- ・特別損失は上期計上分（79億円）を年間で織り込む。
※今後発生する費用がある場合には、追加で計上される可能性がある。
- ・為替は期初と比べて円安で想定（米ドル:150円（期初:135円））

期初想定との主な差異

（数字は対期初想定）

・売上	：連結	▲165億円（国内▲145億円、国際▲20億円）	
・営業利益	：売上減 広告減 その他	▲120億円 +125億円 ▲28億円	※操業の影響や製品構成の影響を含む ※主なものは為替影響、廃棄費、物流費等

続きまして、通期の見通しにつきまして、今回公表することとなりましたので、ご説明を差し上げたいと思います。

前提になりますのは、ここに記載の通りでございますけれども、まずは広告につきましては、国内は年内は再開しないということを前提にして数字を算出しております。

また、インバウンドは、先ほどもご説明をさせていただきましたけれども、現状におきましては、コロナ前と比較しましても同レベルの推移をしておりますので、期初想定通りということで、年間95億円を見込んでおります。

また、為替につきましては、このところ大きな動きはありますけれども、前提としましては、米ドルの150円を想定しております。次のページに、これらの前提をもとにした数字をまとめております。

(単位：億円)	2023年12月期 実績	2024年12月期 業績予想 (最新)			2024年12月期 期初計画
	金額	金額	対前期	利益率	金額
売上高	1,734	1,690	▲2.6%	-	1,856
営業利益	257	240	▲6.9%	14.2%	263
経常利益	273	255	▲6.7%	15.1%	275
当期純利益	203	121	▲40.5%	7.2%	205
EBITDA ※1	317	319	+0.4%	18.9%	342
EPS	268.16円	162.77円	▲29.3%	-	275.76円
ROE	10.1%	5.7%	-	-	10.0%
配当	101円 (中間43円、期末58円)	102円 (中間43円、期末59円)	-	-	103円 (中間44円、期末59円)
国内事業売上高	1,304	1,205	▲7.7%	-	1,350
国際事業売上高 ※2	422	480	+13.5%	-	500

※1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額 ※2 為替レート：150円/米ドル、21.0円/中国元

今回、赤枠で囲ってる数字を今期の予測としてご提示いたしました。

売上高は1,690億円、営業利益は240億円、当期純利益は121億円といたします。EBITDAにつきましては、前期の実績を上回る319億円で、配当につきましては本日リリースいたしました中間配当の金額も踏まえまして、102円といたします。

まずは補償と再発防止策をしっかりと進め、品質と安全を第一に、小さな信頼をひとつずつ積み重ねてまいります。

そのうえで、今後長期の目線で企業価値を向上させるべく、品質並びに人的資本を第一とする投資判断のあり方、事業ポートフォリオの再編の検討、キャッシュアロケーション・株主還元の方角性の見直し等、今後の発表に向け検討を進めてまいります。

最後に、今後についてです。

現時点におきまして、補償や再発防止策を実施し、信頼回復に向けて全力を挙げて取り組むことが最優先だと考えております。

その上で、長期の目線で企業価値を向上させるために、品質ならびに人的資本を第一とする投資判断のあり方、事業ポートフォリオの再編の検討、またキャッシュアロケーションや株主還元の方角性の見直し等、これらを近くまたお話しできる機会があればと考えております。

以上、私から 2024 年の 12 月期第 2 四半期の決算業績のご報告とさせていただきます。

(山根)

当社は今、今後事業を進めていく上での考え方、これをやっぱり根本的に変えていきたいというふうに思っております。そして再び世の中の皆様から、あったらいいなをカタチにすること、これを進めて良いのだというふうに言っていただけるような状況に持っていけるように、粉骨砕身、頑張りたいと思っております。

そのためにも、まずは補償と再発防止、これをしっかりと進めること。そして、品質と安全、これを第一に考えて、魂のこもったものづくりをもう一度しっかりやっていく。こういうことだと思えます。小さな信頼を一つずつ積み重ねてまいります。

最後になりましたが、本当に投資家の皆様方にはご心配とご迷惑をおかけしていることと申します。我々、これからも粉骨砕身、頑張ってまいりますので、よろしくご支援のほど、お付き合いくださいませよう、よろしくお願ひ申し上げます。私からは以上でございます。